

1. 今月の活動

【 ストップ結核(TB)バレンタイン・啓発キャンペーン 】

2月14日、バレンタインデーにストップ結核(TB)の啓発のため、特製チョコレートをつくり、多剤耐性結核(MDR-TB)患者の成瀬君へプレゼントした。来日したアメリカのヒラリー・クリントン国務長官らにも届けた。また、国会議員、関係省庁、日本リザルツの会員の皆様には先月号のマンスリーレターに写真&コメントを貼付し、多剤耐性結核(MDR-TB)について多くの方々に関心を持っていただくことができた。

WHOのストップ結核パートナーシップ(本部 スイス・ジュネーブ)の公式ホームページにも掲載された。



LUIS FIGO
STOP TB
AMBASSADOR

A Valentine's treat for people who care about stopping TB



14 February 2009 - Tokyo- Valentine's Day is for people who care - about fighting TB. That's the message from the Stop TB Partnership Japan and Results Japan, who produced, in limited quantity, a special STOP TB chocolate to celebrate the day. Mr Naruse, a former MDR-TB patient, pictured here with the confection, appeared in January on the widely viewed Japanese programme "TV Asahi".



Links on TB, Tobacco and Air Pollution

[Tobacco Smoke, Indoor Air Pollution and Tuberculosis: A Systematic Review and Meta-Analysis](#)

Figo observes a moment of silence - for all the people losing their lives to tuberculosis

9 February 2009 - Geneva - By tradition, on playing fields across the world, soccer teams stand silently for a moment to honour fallen team-mates or acknowledge the passing of football heroes. In a short film released today by the Stop TB Partnership international soccer... [Read more...](#)



【 パキスタン支援国際会議 】

米国新政権の外交政策に応じてパキスタン支援のための国際会議が東京で3月から4月に開催される予定である。日本リザルツは、これに向け世界第8位の結核高蔓延国であるパキスタンへの一層の結核対策を要請する文書およびパキスタンとアフガニスタンの結核の現状を表す資料(表)を作成し、外務省国際協力局に要請をおこなった。また、日本パキスタン友好議員連盟幹事長の杉浦正健議員にも協力をお願いした。現在パキスタンでは、JICA結核対策プロジェクトが継続中で2009年3月末終了予定である。

パキスタン・アフガニスタンの結核の現状

	人口 (万人)	結核患者数	世界蔓延国順位	結核罹患率・全結核 (対10万人)	結核罹患率・喀痰塗抹陽性肺結核 (対10万人)	新規患者数	死亡率 (対10万人)
パキスタン	1億6,000	200万人	8位	181	82	28万人	34
アフガニスタン	2,600	---	22位	161	73	---	32

比較:1961年に日本には、954,102人の結核患者がいた。現在は、人口1億28百万人、結核中蔓延国で、結核有病率は17(対10万人)、新規患者が年間2.5万人、死亡率は1.8(対10万人)である

注:両国においては2004年からJICA結核対策プロジェクトが進行中であるが、2009年3月で終了する

出所:WHO2008年報告書などより(財)結核予防会結核研究所がまとめた資料から抜粋、一部は推定数値である

作成:日本リザルツ (2009年2月)

【 アジア大都市感染症対策プロジェクト共同調査研究会議 】

表記会議が2009年2月3～5日の3日間、東京都庁会議室で開催されリザルツ関係者も出席した。基調講演として、WHO 神戸センター所長のクマレサン氏が「感染症制圧のための世界戦略」について、結核研究所長の石川信克氏が「日本における結核対策 保健システム強化に対する結核対策の貢献」について講演を行った。二日目は、バンコク、ハノイ、ソウル、台北、東京各都市の健康局長・疾病対策部長が結核の現状と対策について発表、さらに東京都・結核研究所が草案を作成した結核共同調査計画について議論をおこない大筋で合意した。今年から2011年にかけて調査を行い各都市による調査結果の公表・次段階に関する議論を行うことになった。リザルツとしては、都市化と病気について取り組んでいるWHO 神戸センターおよび東京都とともにアジア諸都市の結核問題に取り組んでいく方針である。

2 . ストップ結核パートナーシップ日本 (STBJ) の活動

3月2日、ストップ結核アクションプランのフォローアップ会議が外務省にて開催された。外務省、厚生労働省、JICA、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本の5者が参加し、それぞれのアクションプランの進捗状況について報告があった。JICAからは、パキスタン、カンボジアのプロジェクトとともに、科学技術振興機構との共同事業、地球規模課題対応国際科学技術協力として、ザンビアでの5年間プロジェクト「結核及びトリパノソーマ症の新規診断法・治療法の開発研究」が進められていることが報告された。また、結核予防会からは都市化と結核について、結核研究所、WHO 神戸センター、東京都、アジアの大都市で研究プロジェクトが進められていることが報告された。また、北京、アメリカ・シアトルと続く多剤耐性結核に関する国際会議について、情報共有がなされた。なお、ストップ結核パートナーシップのAAC (アドボカシー・アドバイザリー・コミッティー)の委員に日本リザルツの白須事務局長が、アジア人で唯一はじめて選出された。ストップ結核のさらなる国際的なパートナーシップの強化と日本でのストップ結核の取り組みを今以上に世界へ発信していく予定である。

3 . マンスリー ミーティング ボランティア 林 ゆり子さん

2月17日新宿区保健所の佐藤和央さんによる「路上生活者の結核について考える」のマンスリーミーティングに参加した。新宿区は昼と夜の人口差が大きい上(日中の人口は夜間の2倍以上)年間人口の約10%が入れ替わるため、フォローが難しい地域だとのこと。しかし生活福祉課との連携、地元薬局の協力など様々な方法で徐々にDOTS(結核感染者への持続的服薬確認)が浸透しつつあり、その結果追跡困難になりがちなホームレスの患者さんを含めて、実にDOTSカバー率93.9%である。また年2回検診車が出動し、スクリーニングも積極的に行っているそうである。ただ、残念なことに平成18年まで減少し続けていた新規の結核登録患者数は19年から増加に転換した。昨年末からの経済危機もあり更なる感染拡大も懸念されるが、新宿区のような積極的で地域特性を活かした対策・予防策が他の都市部にも広がれば、結核は減少していくだろうとの思いを強くした。

4 . マイクロクレジット シニアアドバイザー 岡本 直彦さん

マイクロクレジット近況報告(2)

これは最近のマイクロクレジット(マイクロファイナンス)の物語です。

スーザンは、ケニアの貧しい田舎で育ちました。家族のなかで彼女だけが学校に行けました。でも、学費が払えなくなり第四学年で学校をやめました。17才で妊娠したとき彼女は家を追い出されました。仕事を探しに彼女と幼い息子はナイロビに行き、そこで結婚し娘が生まれました。彼女がHIVに感染していることがわかったときに夫は妻を離縁しました。彼女は二人の子供を育てる収入源が見つからず、売春をするようになりました。彼女は、あるときスラムの隣人からナイロビでマイクロファイナンスをやっている「ジャミー・ポーラ」のことを聞きました。その後、彼女はビジネスの訓練をやり、洋服を直したり販売したりすることを始めました。彼女は、ついに犯罪と病気が蔓延しているスラムから脱出することができました。

時々高い家賃を払うために食事を抜いたりしましたが、子供が安全な場所にいると感じることでこのような困難を克服できました。家は床があり、雨漏りしない屋根があり、水道があり、鍵もあります。借入額が増えるにつれ、多くの原料を安く購入でき、利益をあげることができるようになりました。彼女は、「ジャミー・ポーラ」の医療保険と HIV 治療がなかったら生きていなかったでしょう。ほかに面倒見る人がいない子供たちのことは想像することができません。彼女は、初めて貯金ができるようになり、子供たちへ教育を受けさせるつもりです。そうすれば、貧困の悪循環から子供たちは逃れることができるでしょう。

5 . パートナーの活動

切り絵画家 久保 修さん

世界的に著名な「切り絵画家」の久保 修氏が、日本リザルツを訪問された。久保氏は、日本リザルツの心強いサポーターであると同時に「ストップ結核パートナーシップ日本」設立の発起人の一人でもある。また「結核チャンピオン」として日頃から結核削減に向けて様々なご協力とご支援をいただいている。昨年ニューヨークで展覧会久保 修「紙のジャポニズム」切り絵の世界を開催され、大変盛況なうちに終えられ、今や日本の良き伝統である切り絵を通じて日本の”ところ”を世界へ発信されている。そもそも久保氏が結核の活動を支援するようになった契機はご自身のお父様が老人結核で亡くなったということ、日本リザルツの活動に触れる中で結核は現在でも日本最大の感染症であり、全世界において1日に5,000人もの方々が亡くなっている世界三大感染症の一つであるということを知って、衝撃を受けたことが大きかったとのこと。今年ポルトガルで展覧会を開催されるそうで、今後も「ストップ結核」への理解と協力を呼び掛けていきたいという、お言葉に日本リザルツのスタッフ一同、たいへん心強く感じ勇気をもらうと共に大きな感銘を受けました。

久保さん、本当に有り難うございました。

6 . お知らせ

【 結核予防全国大会 】

3月17日～18日、財団法人結核予防会設立70周年記念「結核予防全国大会」がホテルニューオータニで開催される。

【 ストップ結核(TB)パートナーズ・フォーラム 】

3月23日～25日、ブラジルのリオにて開催されストップ結核(TB)パートナーシップ代表理事の白須、広報担当の鈴木、WHO 神戸センター所長のクマレサン氏、結核研究所副所長の加藤氏が出席する。

【 「国際連帯税を推進する市民の会」(ACIST) 設立総会 & シンポジウム 】

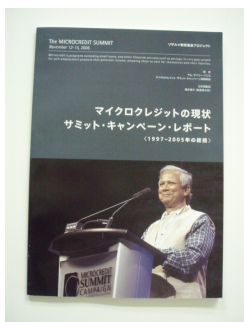
4月4日、午前10時半から設立総会が、午後1時半よりシンポジウムが、豊島区勤労福祉会館に於いて開催される。

当マンスリーレターに関するご質問・ご意見などございましたら results.japan@gmail.com までご連絡ください。

ご寄附のお願い: 世界の貧困・保健問題の解決のため、政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号00170-9-581459(加入者日本リザルツ)とご記入ください。



日本リザルツの西尾さんは、約13年前に結核（TB）に罹患した元患者さんです。当時3～4ヶ月間の治療を受けて完治した経験を持っています。現在は、日本リザルツで結核（TB）削減やマイクロクレジット促進に向けた様々なアドボカシー活動に取り組んでいます。



また、西尾さんは、年越し派遣村でボランティアをしたり、ホームレスの方々への炊き出しや巡回訪問のお手伝いもしているそうです。貧困と結核（TB）が、「世界からなくなる日が必ずやってくる」ということを信じて日々頑張っています！」と意気込みを語ってくれました。

マイクロクレジットの現状サミット・キャンペーン・レポート

特別価格 ¥1,000-（消費税・送料込）にて販売しています。

ご希望の方は、日本リザルツまでお問い合わせ下さい。